

科目名	建築設計製図Ⅱ										
科目名(英)											
単位数	4単位			時間数		60時間		担当者		笠 真由美	
実施年度	2023年度			実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科 1年										
授業概要	前期で学んだ基本操作と建築知識を応用し、建築物の作図方法を学ぶ。自らの建築製図知識とCADの経験を 駆使したうえで、建造物の特性を理解した適切な判断によるトレースを行い、これを完成させる。										
授業形態	講義：△			演習：○		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○	○			模型製作の手順を理解し、正確な模型を作成することができる。					
	○	○	○			作図に必要な用紙設定・尺度設定・印刷設定を行うことができる。					
	○	○	○			尺度による表記の違いを理解し、平面詳細図を正確に作図することができる。					
	○	○	○			図面と図面の関係・つながりを理解し、立面図を正確に作図することができる。					
	○	○	○			効率の良い作図手順を選択し、作図のスピードと正確さを向上させることができる。					
テキスト・教材 参考図書	この1冊で全部わかる木造住宅秘伝のテクニック（エクスナレッジ）／ オリジナルプリント										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1,2	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 1階平面図					授業内容を復習しよう				
	3,4	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 2階平面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること				
	5,6	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 断面図					授業内容を復習しよう				
	7,8	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 立面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること				
	9,10	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 模型製作					模型の作成を進めて下さい				
	10,11	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 模型製作					模型の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること				
	12,13	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 矩計図					授業内容を復習しよう				
	15,16	【鉄筋コンクリート造】貸事務所 矩計図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること				
	17,18	【鉄骨造】集会場など 1階平面図					授業内容を復習しよう				
	19,20	【鉄骨造】集会場など 2階平面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること				
	21,22	【鉄骨造】集会場など 配置図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること				
	23,24	【鉄骨造】集会場など 断面図					授業内容を復習しよう				
	25,26	【鉄骨造】集会場など 立面図					課題の提出 未提出者は次回の授業までに提出すること				
	27,28	【鉄骨造】集会場など 1階小屋伏図兼2階床伏図					授業内容を復習しよう				
	29,30	【鉄骨造】集会場など 小屋伏図					課題の提出				
評価方法	(1) 練習課題の提出状況 (2) 確認テスト(作図の正確さ) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
						言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習課題					○	◎	○			100%
履修上の注意	授業課題が未提出の者、出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない										

科目名	建築計画Ⅲ						
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	森行 美枝
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	社会が変化する中、建築の担う役割は多様になっている。そのために過去、現在、未来、それぞれにどのような役割を建築が担ってきたか、あるいは担う可能性があるか、各自で思考を深める必要がある。例えば建築の歴史をふりかえり、現在の環境問題に建築がどのように貢献できるかを考察することが望ましい。前期では、主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。 以上の内容の概説に加え、個人またはグループに課題を出題し調査や発表・講評等も行う予定である。						
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築計画とは何かを説明できる	
		○				既存の建築計画を調査・研究している	
		○				これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築計画(改訂版)、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス4-1生活圏とコミュニティ施設					
	2	4-2図書館 図書館の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	4-2図書館 公共図書館の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	4-2図書館 地域図書館の計画、近代建築史				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	4-3美術館 美術館の計画・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	4-3美術館 美術館の計画・各室計画の変遷				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	4-4コミュニティーセンター、公民館				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習する。	
	8	4-5確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	5-1高齢社会と建築計画 5-2病院 病院の誕生				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	5-2病院 病院の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	5-2病院 各室の計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	5-3高齢者施設 居住施設・各室計画				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	14	5-3確認テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 復習しておく。	
	15	総括				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと 期末試験に向けて復習をする	
評価方法	講義中の課題講評プレゼンテーション、レポート提出、期末試験の結果等により総合的に評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	課題・プレゼンテーション	○	◎				10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築計画Ⅳ										
科目名(英)	Architectural Planning Ⅳ										
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		赤星 亜美	
実施年度	2023年度			実施時期		後期		担当者実務経験		オーダー家具制作会社で インテリアコーディネーター として勤務	
対象学科・学年	建築CAD科 1年										
授業概要	社会的状況により建築計画も大きく変わってきます。あらゆる施設の条件的な成り立ちを理解することは、新しい形状を見つけ出すためには重要な資料となる。この授業では、施設計画の裏付けを理解し、自ら設計提案できる力を身につけることを目的とする。										
授業形態	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				既存の建築計画の調査、研究が出来ている					
	○	○				事務所ビルの理解ができ計画が出来る					
	○	○				音楽ホール、劇場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる					
	○	○				百貨店、スーパーマーケットの構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる					
	○	○				宿泊施設、駐車場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる					
テキスト・教材 参考図書	テキスト:初学者の建築講座 建築計画(改訂版) 参考図書:カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館 市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌 その他										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率							予習・復習することを心がける。		
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	4	6-2事務所ビル 各室計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷							前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷							前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件							前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。		
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。		
	15	総括 I							授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
						言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合

科目名	建築環境工学						
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	工藤 有紀
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	ハウスメーカーでインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立てる。						
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学 市ヶ谷出版 オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築環境工学の役割					
	2	太陽位置と日照・日影の関係				教科書予習する	
	3	日影曲線・日影時間				教科書予習する	
	4	日射量・日射調節				教科書予習する	
	5	光環境・測光量・照度計算				教科書予習する	
	6	明視条件・採光				教科書予習する	
	7	採光による照度計算・採光計画				教科書予習する	
	8	人工照明・照度計算(光束法)				教科書予習する	
	9	色彩の表し方・表色法				教科書予習する	
	10	色彩の効果・色彩計画				教科書予習する	
	11	室内空気汚染物質と許容濃度				教科書予習する	
	12	各汚染物質に伴う必要換気量の計算				教科書予習する	
	13	自然換気の種類と風力換気の計算				教科書予習する	
	14	自然換気・温度差換気の計算・通風				教科書予習する	
15	機械換気方式・換気計画				期末試験のため今までの振り返りをする。		
評価方法	期末試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築構造力学Ⅱ										
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅱ										
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	古賀 俊光			
実施年度	2023年度			実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事			
対象学科・学年	建築CAD科 1年										
授業概要	形や空間を構成するには建築構造の知識が必要となります。また、天災による建物への被害が起きており、多くの人が建物の構造強度についての関心も強くなっている。建物の機能を保てる構造を作るためにも建築構造力学の知識は重要となります。この授業では、建築構造力学(応力、トラス、座屈、たわみ、不静定構造など)の考え方を身につけます。										
授業形態	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				応力を算出することができる。					
	○	○				3ヒンジラーメンの反力・応力を計算することができる。					
	○	○				トラスの軸力を算出することが出来る。					
	○	○				梁のたわみ、材の座屈が計算できる。					
	○	○				不静定構造物について説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	持ち出し梁の応力									
	2	片持ち梁の応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	3	片持ち梁系ラーメンの応力(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	4	片持ち梁系ラーメンの応力(2)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	5	単純ラーメンの応力(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	6	単純ラーメンの応力(2)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	7	3ヒンジラーメンの応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	8	トラス構造の特徴と静定トラスの解法について					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	9	静定トラス 切断法(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	10	静定トラス 切断法(2)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	11	静定トラス 節点法・算式					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	12	静定トラス 節点法・図式					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	13	梁のたわみ					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと				
	14	座屈					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
	15	不静定構造について					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験	○		◎							40%
	小テスト	◎		◎							40%
	宿題・レポート	○		◎							20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない										

科目名	建築一般構造Ⅱ									
科目名(英)	Introduction of Building ConstructionⅡ									
単位数	2単位			時間数	30時間		担当者	古賀 俊光		
実施年度	2023年度			実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築CAD科 1年									
授業概要	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているかを学ぶ。									
授業形態	講義： ○			演習： △		実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				RC構造の特徴について説明することが出来る。				
	○	○				RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)について説明することが出来る。				
		○				断面算定をすることが出来る。				
	○	○				鉄骨構造の概要について説明することが出来る。				
	○	○				トラス構造について説明することが出来る。				
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築構造 市ヶ谷出版									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	鉄筋コンクリート構造(以下RC構造)とは								
	2	RC構造の特徴					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	3	RC構造の材料(コンクリート・鉄筋)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	4	梁・柱部材					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	5	構造におけるひび割れ、スラブ・耐震壁					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	6	断面算定					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	7	その他のコンクリート系構造(壁式構造)(SRC構造)(プレストレストコンクリート構造)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	8	各部構造(陸屋根、床、階段、壁、天井、開口部)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	9	鉄骨構造の概要					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	10	鋼材の種類と性質					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
	11	各部材の設計					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	12	接合(高力ボルト接合)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	13	接合(溶接接合)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	14	柱脚、トラス構造					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
	15	構造Ⅱの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを3回実施する。 (3)宿題・レポートを数回実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	○		◎				40%		
	小テスト	◎		◎				40%		
	宿題・レポート	○		◎				20%		
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building ConstructionⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	集路 正巳
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	前期で学んだ施工Ⅰに続き、鉄骨工事以降の建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を学ぶ。また、建物完成後の業務に関しても、概要を学習する。						
授業形態	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○	○				建築生産の仕組みを理解し、説明できる	
	○	○				請負契約から工事計画、工事管理まで理解し、説明出来る	
	○	○				建築工事を構成する様々な工種を理解し、概要を説明できる(仮設・土・地業・鉄筋・型枠・コンクリート)	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄骨工事(概要、工場製作①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	鉄骨工事(工場製作②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	鉄骨工事(工場製作③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	鉄骨工事(現場施工②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	鉄骨工事(現場施工③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	鉄骨工事のまとめ、確認テスト①				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	8	屋根工事、防水・シーリング工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	内装工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	確認テスト②、期末試験対策				授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				30%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	建築法規Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		徳田 美穂子		
実施年度	2023年度			実施時期		後期		担当者実務経験		設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事		
対象学科・学年	建築CAD科 1年											
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る											
授業形態	講義：○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				建築に関する用語の定義を始めとする基本事項を説明することができる。						
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。						
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、順守すべき事項を説明することができる。						
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。						
テキスト・教材 参考図書	・建築関係法令集 法令編											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	階段、廊下の幅							事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	2	階段、廊下の幅②							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	3	確認申請などの手続き1							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	4	確認申請などの手続き2							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	5	構造と規模についての規定							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	6	用途地域1							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	7	用途地域2							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	8	道路概要							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	9	敷地と道路の関係							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	10	建ぺい率1							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	11	建ぺい率2							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	12	容積率1							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	13	容積率2(緩和)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	14	容積率3(緩和)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	15	確認問題 (筆記試験)							定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								80%
	小テスト	○		◎								20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない											

科目名	建築法規 Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	徳田 美穂子
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	設計事務所にて公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る						
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。	
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○	○				建築法規の規定事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。	
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	高さ制限1				事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	2	高さ制限2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	3	高さ制限3、日影				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	4	内装制限1				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	5	内装制限2				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	6	防火区画等①				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	7	防火区画等②				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	8	避難施設1(避難施設が必要な建築物)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	9	避難施設2(避難階段と特別避難階段)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	10	避難施設3				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	11	その他の法令1(建築士法)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	12	その他の法令2(建築士法、建設業法)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	13	その他の法令3(バリアフリー法、耐震改修法)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
	14	その他の法令4(品確法、長期優良住宅)				次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。	
15	その他の法令5(消防法)				定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
	小テスト	○	◎				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	BIM演習 II							
科目名(英)	Building Information Modeling II							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	道脇 力	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	建築設計会社にて設計担当	
対象学科・学年	建築CAD科 1年							
授業概要	・企画設計から基本、実施設計への流れ・モデル作成、モデルから実施設計図面を作成 ・チームワーク作業							
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標		
		○				基本設計、実施設計の概要と環境設定ができる。		
		○				企画設計モデルから基本設計モデルへの移行作業ができる。		
		○				基本設計モデルから実施設計モデルへの移行作業ができる。		
		○				実施設計図面の詳細図の作成ができる。		
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。		
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22ではじめる BIM設計入門 [基本・実施設計編]							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2	前期の復習、教材モデルの入力				テキストを見て予習を行うこと		
	3 4	教材モデルの入力				前回の復習を行うこと		
	5 6	教材モデルの入力				前回の復習を行うこと		
	7 8	教材モデルの入力				前回の復習を行うこと		
	9 10	教材モデルの入力				前回の復習を行うこと		
	11 12	教材モデルの入力				前回の復習を行うこと		
	13 14	課題制作への準備				情報、資料収集を行うこと		
	15 16	課題: 店舗付住				情報、資料収集を行うこと		
	17 18	課題: 店舗付住				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	19 20	課題: 店舗付住				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	21 22	課題: 店舗付住				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	23 24	課題: 店舗付住				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	25 26	課題: 店舗付住				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	27 28	課題: 店舗付住				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	29 30	課題: 店舗付住				必要提出資料の確認を行うこと		
	評価方法	(1)2つの課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・表現力を評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
提出期限			○				20%	
課題提出			◎				40%	
課題評価			◎				40%	
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない							

科目名	建築図学Ⅱ						
科目名(英)	ARCHITECTURAL PERSPECTIVEⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山内 由美
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD学科 1年						
授業概要	建築においてパースは建物の完成予想図を言うが、むしろ設計途中のイメージパースが重要である。オーナーの希望を具体化し 絵 として表現する事により、より解りやすく表現する方法です。 建築における建物の外観・内観を遠近法や図法を使って完成予想図作る方法を学ばせる。						
授業形態	講義： △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○	○			2消点法を用いて基本的なパースが描ける	
		○	○			基本的なフリーハンドパースを描ける。	
		○	○			自ら設計した住宅の内観をパースにすることができる。	
		○	○			自ら設計した住宅の外観をパースにすることができる。	
		○	○			色鉛筆で着色し、カラーパースとして完成させる。	
テキスト・教材 参考図書	超かんたん パースの描き方						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	外観2消点図法 基本①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	2	外観2消点図法 基本②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	3	2階建ビル フリーハンドによる作図				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	4	3階建てビル フリーハンド・2消点図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	5	3階建てビル フリーハンド・2消点図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	6	陸屋根住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	7	陸屋根住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	8	切妻住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	9	切妻住宅のパース作成 フリーハンド・2消点グリッド図法②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	10	2階建アパート フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	11	2階建アパート 2階建コーポ フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	12	2階建コーポ フリーハンド・2消点図法				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	13	自作の設計図面をパースにする①				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	14	自作の設計図面をパースにする②				課題は次の授業までに終わらせておくこと	
	15	着色				授業最終日に指定する締切日に全作品を提出	
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題提出		○	○			20%
	課題作品		○	○			50%
	提出締切		○	○			30%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	CG演習 II						
科目名(英)	Computer Graphicsr Exercises II						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	松本 剛太
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	デザイン制作会社にて 広告制作を担当
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	Illustratorの基本操作と、業界における重点を学ぶ それら基礎知識の浸透が目的						
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				Illustratorの機能について説明することができる	
		○				Illustratorによる適切なレイアウト処理ができる	
		○				オブジェクトの編集をすることができる	
		○				Photoshopとの連携を意識した処理ができる	
テキスト・教材 参考図書	情報リテラシー Office2016						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	IllustratorとPhotoshopの基本 ベクトルとラスターの理解				Illustratorのインストール	
	2	図形や線を描く					
	3	オブジェクトの選択と基本的な変形					
	4	色と透明度の設定 CMYK版について					
	5	オブジェクトの編集と合成					
	6	線と文字の設定					
	7	その他有効活用すべき機能					
	8	紙面レイアウト演習1 文字の役割					
	9	紙面レイアウト演習2 段組の活用					
	10	PhotoshopとIllustratorの連携 画像の配置とその機能特性					
	11	Illustrator練習問題1 練習問題の解説					
	12	Illustrator練習問題2 練習問題の解答					
	13	Illustrator練習問題 回答と解説					
	14	Illustrator練習問題3 解説なしでの独力解答					
	15	Illustrator練習問題3 解答と解説					
評価方法	習問題を小テストとして評価 2種実施、その提出により評価 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト		○				80%
	宿題・レポート		○				20%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	就職実務Ⅱ									
科目名(英)	Career Study Ⅱ									
単位数	1単位			時間数	15時間		担当者	各クラス担任		
実施年度	2023年度			実施時期	後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年									
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 具体的には、就職活動における基礎的な振る舞いを身に着け、習慣化する									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○					就職活動に必要な自己分析を行うことができる				
	○					基本的な面接対応ができる				
		○				メール対応など、就職活動に必要なコミュニケーション知識がある				
	○	○				企業研究の方法を知っている				
		○				学校求人を利用するための条件を知っている				
テキスト・教材 参考図書	学校支給のGCBテキスト 就職活動ガイドブック									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	企業講話 実践的な課題の提案 ＊メールアドレスの確認と管理								
	2	就職活動に関する心構え ものづくり系の仕事とは								
	3	就職活動に関する心構え 必要なスキル								
	4	就職活動に関する心構え 課題作品の模擬プレゼンテーション								
	5	・履歴書の書き方 ・メールアドレスの管理								
	6	・履歴書の書き方 随時添削 ・メールアドレスの管理								
	7	・履歴書提出と添削								
	8	就職活動スケジュールを確認 及び 順次個人面談と企業対策								
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
	15									
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講態度・意欲	○	○				30%			
	課題の提出	○	○				70%			
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	各クラス担任
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 1年						
授業概要	GCB I で学んだ「感謝の気持ちと他社への思いやり」を踏まえ、GCB II ではさらに「社会とのつながりの中で自分自身の生きる姿勢＝志」について学ぶことを確認します。「志とは何か」を学ぶ第一歩として、「夢、ビジョン、志の違いについて」および「志を立てるために大切な4つのこと」を学びます。						
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				考えることの大切さを知る	
	○	○				自分の言葉で伝える大切さを知る	
		○				目標の大切さ、志の大切さを知る。	
		○				行動する大切さに気づく。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックⅡ テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志 ～志とは何か。どうすれば志を立てることができるのか～					
	2	なぜ志を立てることが大切なのか ～世界の中の日本・日本の中の私①～					
	3	自己を知る ～私の過去・現在・未来～					
	4	伝える力を学ぶ(1) ～「個」としての伝える力を高める(自分の言葉で自分の思いと考えを伝える～					
	5	伝える力を学ぶ(2)「グループコミュニケーション」 ～勇気と思いやりをもって言葉のキャッチボールを～					
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる (言葉の力とプロ意識に学ぶ) ～プロとは～					
	7	自己の大切さと責任を自覚する ～世界の中の日本、日本の中の私②～					
	8	GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	設計競技ゼミⅠ										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		60時間		担当者		古賀 俊光		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		設計事務所にて建築デザインに従事		
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年										
授業概要	設計競技に挑戦する。課題に対して、分析、問題提起、解決への道筋をたて、建築パースや模型・各種図面で表現をし、プレゼンボードとしてまとめて設計意図を表現することができる能力を身につける。										
授業形態	講義:			演習:		実習: ○		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○				課題を分析することができる					
		○				問題に対して道筋をたてた設計回答をすることができる					
		○				設計した内容についてプレゼンテーションが出来る。					
テキスト・教材 参考図書	参考図書:各種建築雑誌										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	ガイダンス・課題説明									
	2	課題分析・エスキース							遅れている分は時間外に実施		
	3	エスキース							遅れている分は時間外に実施		
	4	エスキース							遅れている分は時間外に実施		
	5	エスキース							遅れている分は時間外に実施		
	6	エスキース							遅れている分は時間外に実施		
	7	エスキース							遅れている分は時間外に実施		
	8	エスキース							遅れている分は時間外に実施		
	9	中間プレゼン用PP作成							遅れている分は時間外に実施		
	10	中間プレゼン用PP作成							遅れている分は時間外に実施		
	11	中間プレゼンテーション							遅れている分は時間外に実施		
	12	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	13	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	14	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	15	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	16	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	17	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	18	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	19	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	20	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	21	図面制作・模型作成							遅れている分は時間外に実施		
	22	プレゼンボード・プレゼンPP作成							遅れている分は時間外に実施		
	23	プレゼンボード・プレゼンPP作成							遅れている分は時間外に実施		
	24	プレゼンボード・プレゼンPP作成							遅れている分は時間外に実施		

	25	プレゼンテーション・講評会	遅れている分は時間外に実施				
	26	プレゼンテーション・講評会	遅れている分は時間外に実施				
	27	ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施				
	28	ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施				
	29	ブラッシュアップ	遅れている分は時間外に実施				
	30	作品完成・提出					
評価方法	(1)設計内容・プレゼンテーション (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	設計評価		◎				50%
	プレゼンテーション力		◎				50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	BIM 専攻 I B(選択)						
科目名(英)	Building Information Modeling I B						
単位数	1単位		時間数	15時間		担当者	道脇 力
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 1年						
授業概要	・モデル作成、平面、立面、断面の基本図作成のワークフローの演習。 ・設計課題を通してBIMの特性を理解する。						
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				材質、レンダリングの設定を行い、パースを作成することができる。	
		○				レイアウトを使ってプレゼンテーションボードを作成することができる。	
		○				自身で思い描いた形、空間をARCHUCADを使って表現できる。	
テキスト・教材 参考図書	ARCHICAD 22 Magic Vol. 1 及びVol. 2(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	プレゼンテーションボード作成「データ提出」				前回の復習を行うこと	
	2	ツールの応用、特殊ツールの紹介、質疑応答				前回の復習を行うこと	
	3	課題2: 作成モデルのリノベーション「コンセプト」				情報、資料収集を行うこと	
	4	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス①」				情報、資料収集を行うこと	
	5	課題2: 作成モデルのリノベーション「エスキス②」				情報、資料収集を行うこと	
	6	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング①」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	7	課題2: 作成モデルのリノベーション「モデリング②」				タイムスケジュールの確認を行うこと	
	8	課題2: 作成モデルのリノベーション「プレゼン資料提出」				必要提出資料の確認を行うこと	
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品		◎				50%
	課題提出		◎				50%
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない						

科目名	数学ゼミ I B(選択)									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		吉田 麻美	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 1年									
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す									
授業形態	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				単項式と多項式の基本問題が解ける				
	○	○				文字式を利用した応用問題が解ける				
	○	○				連立方程式の基本問題が解ける				
	○	○				連立方程式の応用問題が解ける				
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	【演習問題】 式の計算 単項式と多項式					解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。			
	2	【演習問題】 文字式の利用 偶数と奇数の和								
	3	【演習問題】 文字式の利用 等式の変形								
	4	【演習問題】 文字式の利用 図形の関係式の変形								
	5	【演習問題】 連立方程式 加減法と代入法を用いた解き方								
	6	【演習問題】 連立方程式 いろいろな連立方程式の解き方								
	7	【演習問題】 連立方程式 連立方程式の利用・身近な問題を解く								
	8	【演習問題】 総合復習 まとめ								
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講態度・意欲	○	○				30%			
	課題の提出	○	○				70%			
履修上の注意	出席が授業回数の2/3に満たない場合は、単位を認めない									